

製品名: Nek9 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14559**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	107kDa

抗原情報

遺伝子名	NEK9
別名	NEK9; KIAA1995; NEK8; NERCC; Serine/threonine-protein kinase Nek9; Nercc1 kinase; Never in mitosis A-related kinase 9; NimA-related protein kinase 9; NimA-related kinase 8; Nek8
遺伝子 ID	91754.0
SwissProt ID	Q8TD19
免疫原	抗血清はヒト NEK9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 176-225

背景

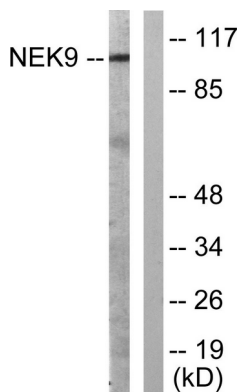
この遺伝子は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼの NimA（有糸分裂 A 期には決して活性化しない）ファミリーのメンバーを

コードしています。コードされているタンパク質は有糸分裂で活性化され、次に有糸分裂中に他のファミリーメンバーを活性化します。このタンパク質はまた、間期の進行に不可欠な細胞プロセスを媒介します。[RefSeq 提供、2016年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: マグネシウム。、発現段階: 発現は細胞周期を通じて緩やかに変化し、G1期および定常期細胞で最も高い発現が観察されます。、ドメイン: コイルドコイルドメインを介して二量体を形成します。、酵素調節: 有糸分裂中に分子内自己リン酸化によって活性化されます。活性と自己リン酸化はマンガンイオン >> マグネシウムイオンによって活性化されます。洗剤濃度の上昇に敏感です。細胞周期によって制御されないが、G0期停止細胞では活性が高くなります。、機能: 有糸分裂進行の多面的制御因子であり、紡錘体のダイナミクスと染色体分離の制御に関与します。さまざまなヒストン、ミエリン塩基性タンパク質、β-カゼイン、BICD2をリン酸化します。ヒストン H3のセリンおよびスレオニン残基と、β-カゼインのセリン残基をリン酸化します。G1/S遷移とS期進行に重要です。、PTM: セリンおよびスレオニン残基が自己リン酸化されます。FACTと複合すると、Thr-210のリン酸化が著しく上昇します。有糸分裂中は、Thr-210はリン酸化されません。in vitroでCDC2によってリン酸化されます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。NEK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。NIMAサブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 6つのRCC1リピートを含む。、サブユニット: ホモ二量体。Ran GTPaseに結合します。Ran-GTPよりもRan-GDPに対して高い親和性を示します。NEK6、NEK7、BICD2と相互作用します。FACT複合体の2つのサブユニットであるSSRP1およびSUPT16Hと相互作用します。、組織特異性: 心臓、肝臓、腎臓、精巣に最も多く存在します。平滑筋細胞および線維芽細胞にも発現します。

研究分野

細胞生物学

画像データ



NEK9抗体を用いたA549細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。